

第 51 回委員会を踏まえた今後の方向性

1 趣旨

令和3年5月18日の第51回横浜市地域まちづくり推進委員会では、「これからの郊外住宅地における地域まちづくり」を議題として、委員の皆さまから様々なご意見を伺いました。

いただいたご意見を踏まえ、今後の支援のあり方の検討状況、及びこれまで行ってきた支援の事例を紹介します。

<第 51 回横浜市地域まちづくり推進委員会における主なご意見>

今後の支援のあり方

- 地域まちづくりプラン策定まで行う意思はないが、地域まちづくりに取り組みたい地区もある。地域まちづくり推進条例における支援の範囲について、時代や社会状況に沿ったものに見直すことが必要。
- 他の計画（地域福祉保健計画等）で位置付けていれば、ハード整備に対する支援の手続きを簡略化するなど、地域の負担を減らしてはどうか。
- 現在の地域まちづくりにおける支援の課題は、様々な区局で同じような議論をしている可能性がある。各区局で課題を共有しながら検討を進めていくべき。

多角的な視点から見るまちづくり

- 地域の中では活躍の場を作ってもらえれば関わりたいと思っている人はいる。今までの経験を生かせる場、隠れた意欲・能力を生かすための仕組みがあるといい。
- 居場所づくりや移動販売等、地域にとって身近なプロジェクトの受け皿になる窓口がない。特に居場所づくりの支援において、各区局がそれぞれ専門的な制度の中で関わっている。
- 郊外ならではの付加価値をつけたまちづくりの視点も重要。地域課題だけでなく、地域資源のプラスの部分で郊外部の魅力として発信できるのでは。
- 地域の価値や魅力向上のために地域経営を行うエリアマネジメントのような仕組みが一般的な地域でも根付くと良い。

2 今後の地域まちづくりに必要な視点

いただいた意見をふまえて、今後の地域まちづくりに必要な視点についてまとめました。

これからの横浜市の地域まちづくりを考えていくうえで、さらに必要な視点や課題がございましたら、ご意見をお願いします。

(1) 地域人材の発掘・活用

- ・ 興味・関心はあっても活動に結びついていなかった人が、地域につながる仕組みづくり
- ・ 活動の中心となる人が、地域の中で活躍していくための支援
- ・ これまで活動してきた地域の人と新たな人材とで、お互いに尊重しながら活動が進められるよう伴走支援

(2) 持続可能な地域まちづくり

- ・ 地域まちづくり活動団体だけでなく、地縁団体、地元企業、NPO、プロボノなど、様々な主体が参加した協働・共創によるまちづくりの推進

(参考) 「[みんなの富岡・能見台 丘と緑のまちづくり IMAGE BOOK \(概要版\)](#)」

- ・ 参加者が活動を継続するため、段階に応じて一定の対価を得ていくこと
- ・ 団体として地域まちづくり活動を継続させるための公共性と事業性のバランス

(参考) [ヨコハマ市民まち普請事業整備成果報告会での意見交換](#)

(3) 地域まちづくりのデジタル化・情報発信

- ・ 地元団体がデジタル技術を活用し、地域に関心を持ってもらうための魅力発信（居住者向け SNS の活用）
- ・ 活動団体が行う、インターネット等を利用した活動の支援
- ・ 地域の状況に応じた、適切な情報発信の手法の選択

(4) 各局が連携したまちづくりの支援

- ・ 分野横断的な地域課題の解決に向け、コミュニティ施策を所管する部署が集まる市民協働局間連携会議等を活用
- ・ 地域福祉保健計画と連携した地域まちづくり活動支援（身近なハード整備に対する支援）

(参考) [地域福祉保健計画と連携したモデル地区の進捗状況 \(スライド\)](#)



イメージブックとは

横浜市と京急電鉄による公民連携のまちづくりに関する連携協定を基に、富岡・能見台地区にてまちづくりワークショップやまちづくり懇談会等、2018～2021年の3年間、地域の皆様との対話を経て作成した富岡・能見台圏のまちづくりの羅針盤です。



まちづくり
の基本姿勢

地域の大人も子どもも、企業も、学校も、行政も
みんな担い手のまち

1. まちの魅力と課題・まちづくりイメージ (方向性)

多様な主体でのまちづくりを進めるため、まちの魅力と課題を踏まえて、これから目指すまちの将来イメージである「まちづくりイメージ (方向性)」を考えました。

魅力		課題
駅周辺に商店街→利便性◎	各種拠点	駅周辺に施設が集中
公園や自然が多く子育てに◎	住環境	公園が活用されず、空家空地も増
変化に富み、魅力ある景観を形成	丘陵の地勢	地域内の移動を制約
定住志向が強く愛着ある人が多い	情報	環境や暮らしの魅力が伝わらない
活発な町内会活動・多様な人材	地域活動	新たな担い手・子育て世代の参加きっかけ△
横浜中心部等へのアクセス◎	交通	公共交通でカバーできない地域がある

まちの魅力と課題は背中合わせ
課題もまちづくりのタネに

10年後のまちの理想的な姿と、
その実現のための6つの「まちづくりの方向性」

まちづくり
イメージ

自在に生きる、誇りに生きる、丘と緑のまち。

- ①シゴトと場づくり：多様多彩な人材が活躍できるまち
- ②子育てのしやすさ：まちぐるみで子育てしながら一緒に育つまち
- ③住環境の価値共有：丘と緑が住む人たちの誇りとなるまち
- ④ 魅力発信：人を惹きつける情報が発信されるまち
- ⑤ 多世代の交流：多世代が出会い、交流し、共感しあえるまち
- ⑥ 多様な移動手段：誰もが無理なく地域内を移動できるまち



2. 例えば、こんなことから。地域創発リーディングプロジェクト

まちづくりワークショップを通じて「まちをよくする・やってみたいプロジェクト」を検討しました。新たな仲間も集めながら実現に向け取組を進めていきます。

<能見台地区>

<富岡地区>

①地域×地元産業で子育てしながら ワクワクする仕事ができるPJ

子育てしやすい環境であるこの地域で、様々なスキルを持つ女性が活躍できる環境をつくり、子育てと自分らしい働き方の両立を目指すプロジェクト。

⑤空き家WANTED！まちのあちこち 拠点づくりPJ

地域の空き家や空き店舗、駐車場などのスペースでの多様な地域の交流拠点づくりのプロジェクト。地域交通で結んで、気軽に立ち寄れる場を目指します。

②工作だけじゃない！工作から始まる 「よりみちDIY能見台」PJ

DIYを通じたまちへの愛着や交流づくりから、空き家の活用によるDIY拠点づくりを目指し、まずはイベントやワークショップでの情報収集から始めます。

⑥富岡情報プラットフォーム 拠点づくりPJ

地域住民の視点で地域の情報を発掘・発信する仕組みや拠点をつくり、地域情報や地域の魅力を共有・交流できる仕組みをつくるプロジェクト。

③能見台魅力発信PJ

能見台ブランドが広く知られ、若い世代が行きたい・住みたいまちとなるよう、地域の魅力や情報を、地域に住む・関わる立場から地域内外に広く発信するプロジェクト。

⑦町内会館カフェテイクオフスペースPJ

地域の町内会館を活用し、多世代がつながる場づくりをするプロジェクト。カフェのような雰囲気や様々な人々の交流、地域活動に参加するきっかけづくりを目指します。

④みんなの能見台ミライ基地PJ

地域で人が出会い、支えあうための拠点づくりのプロジェクト。能見台にある空き地等の活用のため、ニーズ調査・情報発信やイベントの開催などから拠点の検討を始めます。

⑧誰もが無理なく移動できる地域交通 創出PJ (企業主導型)

誰もが無理なく移動できる地域交通のサービス構築を目指すプロジェクト。地域交通を活用し、まちの情報・サービスや人々の交流の活性化にも寄与します。

3. 一緒に振り返ってみましょう。これまでの取組経緯

2018年の連携協定締結からイメージブック発行までの3年間の取組をまとめています。

- まちづくり懇談会 (地域・商店会代表、学識・有識者、行政、京急電鉄による情報共有・意見交換の場)
- まちづくりワークショップ (地域住民有志が参加するアイデアを深める場)
- テーマ別ワーキンググループ (企業等による重点テーマ【交通・拠点】の検討の場)
- とみおかーと実証実験 (急坂による移動負担などの課題解決を目指す富岡地区での新たな地域交通の実証実験)



※写真は、2021年1月10日(日)～2月28日(日)に運行していた車両です。

4. もっと知りたいまちのこと。富岡・能見台圏の魅力と課題

まちの現状分析として、人口世帯数動向や「暮らしやすい地域づくりに向けたアンケート」調査の結果などの分析を行った結果を掲載しました。

- 高齢化 (金沢区での顕著な高齢化)
- 子育てしやすい住環境 (自然や公園等の地域資源が充実)
- 人材豊富なコミュニティ (交流機会や交流施設の充実)
- 交通利便性 (地形の高低差による交通課題)



富岡地区での急坂